

協会ニュース 堺事件の真相に迫る				
1	2023年(令和5年)	4月号(311号)	戒田啓二	①時代背景
2	2023年(令和5年)	5月号(312号)	戒田啓二	②時代背景～堺事件勃発
3	2023年(令和5年)	6月号(313号)	戒田啓二	③堺事件から何を学ぶか



堺事件の真相に迫る ①時代背景

堺事件とは、1868年（慶応4）に堺で起きた土佐藩士とフランス軍艦水兵との衝突、およびその事後処理にまつわる事件です。堺港でフランス兵11人が殺傷され、堺の妙國寺で土佐藩士11人が切腹し、双方で22人もの死者が出たという大事件です。

私達「堺事件を語り継ぐ会」は、生麦事件はよく知られているのに堺事件はどうして知られていないのか、どうして教科書に載っていないのか、といった素朴な疑問から出発しました。

明治維新・日本の近代化は、坂本龍馬や西郷隆盛といった「英雄」たちによってのみ成し遂げられたのではないのです。時代の荒波の中で非業の死を遂げた「土佐十一烈士」、生き残った「九烈士」、神戸外国人墓地に眠る全員二十代のフランス軍艦水兵に思いを馳せていただければ幸甚です。

では堺事件はどうして起きたのか、欧米列強の動向から時代背景を見ていきましょう。

幕末から明治維新にかけての日本の歴史の転換は、徳川幕府 VS 天皇を中心とした政治勢力の国内戦争といった面からだけでは捉えきれない、列強の植民地化計画・覇権争いがありました。その列強の野望の鍵が正に日本だったのです。

・1806年（文化3）露寇事件：徳川幕府が初めて外国との紛争を経験したのは、ペリーの浦賀来航のように思われがちですが、浦賀の50年前、露軍艦が北海道エトロフ島等の幕府出先機関を襲撃し焼き払うという事件がありました。幕府はなすすべなく敗走し、幕府の権威失墜の引き金となります。その後、ロシアは1854年（嘉永7）ロシア艦隊司令長官プチャーチンが軍艦ディアナ号で大阪湾に来航。

1861年（文久元）には極東進出の野望からロシア軍艦が対馬に現れイギリスと対峙します。



・1853年（嘉永6）ペリー浦賀来航

・1854年（嘉永7）日米和親条約 下田と箱館開港

・1858年（安政5）日米修好通商条約 神奈川（下田は閉鎖）、長崎、新潟、兵庫を開港、江戸と大坂を開市。同様の条約を、イギリス・フランス・オランダ・ロシアとも結ぶ。（安政五カ国条約）

なお、寺石正路著「明治元年土佐藩士泉州堺列举」には、この時、幕府とアメリカ領事ハリスの間では堺開港の内諾があったこと、然るに条約の規程に居留地より十里以内に外国人遊歩を許すとの事があり、仁徳・履中・反正の三陵を始め数多くの史跡がこの圏内に含まれることから、前約を取消したと書かれています。

アメリカでは、1861年～65年の南北戦争が終結し、大量の武器が余り、イギリスを中心とした武器商人が幕府、薩長双方に暗躍します。

参考：寺石正路「明治元年土佐藩士泉州堺列举」 大岡昇平「堺港攘夷始末」

NHK 新幕末史グローバルヒストリー NHK 英雄たちの選択

堺事件の真相に迫る ②時代背景～堺事件勃発

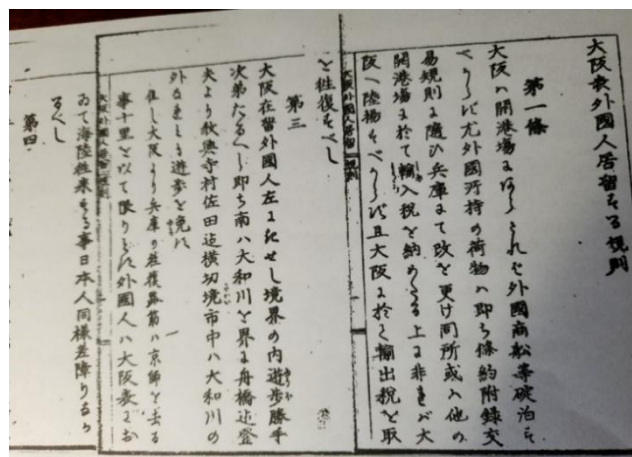
・列強の中で最強は7つの海を制し、1840年からのアヘン戦争に勝利したイギリス。1864年（元治元）イギリスは「日本は中国市場を保護する盾になる」として、海上封鎖・京都制圧・江戸城攻撃を内容とした対日全面戦争を計画しますが、これは財政負担が大きいとして後に放棄します。

・1866年（慶応2）第二次幕長戦争で敗れ窮地におちいった幕府はフランスに接近。翌年のパリ万国博に参加。フランスはイギリスに対抗して軍事顧問団を派遣してきます。その内の一人ブリュネは顧問団帰国後も日本に残り、五稜郭の戦いまで参戦します。

こうした列強の外圧の中、1867年（慶応3）12月7日幕府は安政五カ国条約後、延期していた兵庫を開港し、大坂を開市します。これに伴い結ばれたのが幕府が外国と結んだ最後の協定である遊歩協定「大阪表外国人居留する規則」です。筆者はこれが堺事件真相解明の最大のポイントと考えています。この規則第三条には「大阪在留外国人・・・境（さかい）市中は大和川の外なれ共、遊歩を免（ゆる）す。・・・外国人は大阪表において海陸共往来する事日本人同様差障（さしつかえ）なかるべし」とあります。

しかしながら、「王政復古の重大令」の僅か2日前、戊辰戦争勃発の一カ月前に制定されたこの規則が幕府や新政府によって土佐藩や堺の町民に周知されていたのか甚だ疑問です。

堺事件は、2月15日午前、旗艦ヴェニス号艦長ロア少将と兵庫副領事ヴィヨーが堺見物に外国事務掛宇和島藩士らと共に紀州街道を下り、大和川にかかった大和橋に到り、土佐藩士に追い返されることに始まります。先頭に立った土佐軍艦府大監察杉紀平太は事件翌日、外国事務総督伊達宗城（おねなり）に呼びつけられ、堺が遊歩許可内に入っていることを知らなかったと厳しく叱責されます。



大阪表外国人居留する規則

それではこの時、箕浦猪之吉や西村左平次、土佐藩士は大和橋での宇和島藩士らとの口論の過程で堺が遊歩許可内であることを知り得たのではないかとという疑問が出てきます。後年の土佐側文献、「靖国神社合祀高知県知事宛嘆願書」（土居盛義・明治25年）、「泉州堺土藩士烈拳実記」（佐々木甲象・明治26年）、「明治元年土佐藩士泉州堺烈拳」（寺石正路・昭和12年）、どれを見ても遊歩協定についての記述は一言も無く、「事件は仏人が不法である。安政条約によって、外国人は居留地十里以外に出る事は禁止となっている。それを破り仏人はほしいままに堺に上陸」と一貫しています。

これらから判断すると、土佐藩士は遊歩協定については、やはり知らなかったと理解するのが妥当と考えられます。

さて、いよいよ2月15日午後仏軍艦水兵が堺に上陸してきます。（以下は次号で）

参考：寺石正路「明治元年土佐藩士泉州堺列挙」 大岡昇平「堺港攘夷始末」

NHK 新幕末史グローバルヒストリー NHK 英雄たちの選択

佐々木甲象「泉州堺土藩士列挙実記」 高田祐介「明治維新像の形成と地域の歴史意識」

堺事件の真相に迫る ③堺事件から何を学ぶか

フランス軍艦水兵は、ヴェニス号の大型ボート(8人)とデュプレックス号の蒸気ランチ艇(15人)2艘でやってきます。目的は「ロア少将と副領事に堺で乗船してもらうため」(フランス艦長の見た堺事件、プティトゥアール)であり、測量は「ランチ艇にとって十分の水深があることを大型ボートで確かめる」(同)ため、ランチ艇誘導のためでした。大阪開市に伴う協定により、航行に必要な水域の測量は自由になっていて、遊歩自由地域たる堺港の中の測量も許容範囲と考えられます。しかし、大岡昇平が指摘しているように、測量船が砲台下を測量し直し、台場を偵察していたとすれば重大な逸脱行為であり、箕浦猪之吉を苛立たせたのも事実ではないでしょうか。

さて、堺事件発生のきっかけは、ルムール、デュレル2人のフランス水兵が上陸し、土佐藩士が尋問、連行しようとするルムールが逃げ出したためであることは、日仏双方一致しています。

堺事件はよく「言葉の問題」と言われます。それはこの時ではないでしょうか。「俺達は上官二人を迎えにただけだ。何もしていない。」「二人はもう大阪に返っている。いつまで待っても来ない。さっさと船に乗って帰れ」こういった会話が成立していれば堺事件は起きなかったかも知れません。堺事件に「言葉の問題」はあったと言えるでしょう。

事件は、土佐藩士による発砲、フランス水兵11名の死亡、フランス政府の怒り・五カ条の要求、日本政府は各国に天皇政府承認を要請するための京都御所での天皇の公使謁見を急いでいる折、大坂と堺を鹿兒島が受けたような砲弾、焼夷弾で艦砲射撃されては堪らないという判断から要求を受諾、事件からわずか一週間2月23日妙國寺で土佐藩士20名の切腹を決定、11名切腹の後、フランスの申出により切腹中止、9名はその後四万十川西へ流罪、9月明治改元とともに発せられた恩赦令により赦免と目まぐるしく推移します。

そして、事件から50年以上経った1920年(大正9)土居盛義や谷千城(たてき)、高知県人の尽力により11名の靖国神社合祀が実現へと至ります。



神戸市立外国人墓地慰霊塔

それでは、私達は堺事件から何を学ぶべきでしょうか。それは1916年(大正5)寺内正毅首相が時の仏国首相クレマンソーに交渉した時の文に凝縮されているように思います。「明治元年の堺事件は、双方誤解に基づき遺憾多かりしも(中略)昔の恨は水に流し、両国互いに親和を表し、仏人も日本人も共に合祭し、其の公事に斃れたる(たおれたる)靈魂を慰すべしといふこととなり、仏国も之を領諾」

また、2022年11月神戸市立外国人墓地で行われました在京都フランス総領事館主催のフランス水兵慰霊式では参列されたフランス国防武官と陸上自衛隊陸佐が固い握手を交わされました。

国を守る気概を持ちながら、国際交流・国際親善・国際平和に貢献していくことこそ堺事件の教訓ではないでしょうか。(完)

参考文献： 大岡昇平「堺港攘夷始末」中公文庫
プティトゥアール「フランス艦長の見た堺事件」新人物往来社
高田祐介「明治維新歴史像の形成と地域の歴史意識」